



な  
み

の  
な

三拾編上



特別

〜 13

4271

57

213  
4271  
47

可  
な  
ふ  
八犬  
傳



笑丸子

魯文錄  
芽貴画

三拾編上  
廣岡

91-2300

一

大星氏寺岡小對して曰其元ハ足輕あしがるなり。大おほき口輕くちがる也。ナト  
 牽頭持けんとうもちと云れぬ。ト云僕去る嘉永かゑいの季歳毫採さう初はつ代記だいき  
 抄録物せうろくものより登庸とうようで足輕あしがるなり。口輕くちがるの漫題まんたいは其の筆頭ひつとう封間ふうかん  
 太郎次郎たろうじらうの犬の皮太鼓わのかわたいこ張はと鈍作どんさくの餘業よりのわざ小録せうろくと八犬傳はつけんでんも昔むかし  
 採とりて軒屋のきやが三弦さんげん他人たにんの作意さくいを中途ちゆうとより編次へんじはしる苦心くしんハ  
 一ひとと勿体むたいらしくもはめりせと抄録物せうろくものの哀あはれさあハ一帙いつせつ上下じやうげの潤筆じゆんぴつと  
 鉢子坊主はちまふぢうの報謝米ほうしゃい惜おぼら口風くちかぜむす。ぐぐぬ迹懐あとわくも九太夫くわいぶが敵たかの犬いぬ  
 是因こゝろめく我別号わがべつごうの假名手本なまてほん義士ぎしと犬士いぬしの郷音きやうおんふらん 魚目文記うめもんき



八代傳三十一



あつたひふもまはれこれ  
このころつひに世はまを  
りて山のおおせはうく  
ひとくふれをせむ  
そこのころつひに世はまを  
りて山のおおせはうく  
ひとくふれをせむ  
そこのころつひに世はまを  
りて山のおおせはうく  
ひとくふれをせむ



あつたひふもまはれこれ  
このころつひに世はまを  
りて山のおおせはうく  
ひとくふれをせむ  
そこのころつひに世はまを  
りて山のおおせはうく  
ひとくふれをせむ



あつたひふもまはれこれ  
このころつひに世はまを  
りて山のおおせはうく  
ひとくふれをせむ  
そこのころつひに世はまを  
りて山のおおせはうく  
ひとくふれをせむ



八州傳三十一

五







いふそのちとせらふいせむらもりの  
ことろもきりかくのこまきみありあつ  
つひのほせのてまきくす  
そちくゆつせいのまきぬ  
あまのゆく  
そのまきぬ  
まきぬ

いふそのちとせらふいせむらもりの  
ことろもきりかくのこまきみありあつ  
つひのほせのてまきくす  
そちくゆつせいのまきぬ  
あまのゆく  
そのまきぬ  
まきぬ



いふそのちとせらふいせむらもりの  
ことろもきりかくのこまきみありあつ  
つひのほせのてまきくす  
そちくゆつせいのまきぬ  
あまのゆく  
そのまきぬ  
まきぬ

いふそのちとせらふいせむらもりの  
ことろもきりかくのこまきみありあつ  
つひのほせのてまきくす  
そちくゆつせいのまきぬ  
あまのゆく  
そのまきぬ  
まきぬ

いふそのちとせらふいせむらもりの  
ことろもきりかくのこまきみありあつ  
つひのほせのてまきくす  
そちくゆつせいのまきぬ  
あまのゆく  
そのまきぬ  
まきぬ



まきひあせつらや  
とねーらりぬとあふさあ  
京よりあぢぢのあふさあ  
りふしてそらハガか入りき  
まうそこのあふさあ  
きあんまつハ三とそれ  
どとにハとあけうあふさ  
うちのまきひあせつら  
ゆきつれはあふさ  
まの日は

あふさあ  
まの日は  
あふさあ  
まの日は  
あふさあ  
まの日は  
あふさあ  
まの日は



あふさあ  
まの日は  
あふさあ  
まの日は  
あふさあ  
まの日は  
あふさあ  
まの日は



あふさあ  
まの日は  
あふさあ  
まの日は  
あふさあ  
まの日は  
あふさあ  
まの日は

さきりせむうごまつ  
らんごらうごま  
まきんふてまき  
へくゆりうま  
ありまつふ  
きごあひね  
とあふ



九世



さきりせむうごまつ  
らんごらうごま  
まきんふてまき  
へくゆりうま  
ありまつふ  
きごあひね  
とあふ  
あひまひ  
てあちこち  
まきんふてまき  
そのひひひひ  
日ハなれそつハ  
つひひひひひ  
そのひひひひ  
あひまひ  
さきりせむうごまつ  
らんごらうごま  
まきんふてまき  
へくゆりうま  
ありまつふ  
きごあひね  
とあふ  
あひまひ  
てあちこち  
まきんふてまき  
そのひひひひ  
日ハなれそつハ  
つひひひひひ  
そのひひひひ  
あひまひ  
さきりせむうごまつ  
らんごらうごま  
まきんふてまき  
へくゆりうま  
ありまつふ  
きごあひね  
とあふ  
あひまひ  
てあちこち  
まきんふてまき  
そのひひひひ  
日ハなれそつハ  
つひひひひひ  
そのひひひひ  
あひまひ

あひまひ  
てあちこち  
まきんふてまき  
そのひひひひ  
日ハなれそつハ  
つひひひひひ  
そのひひひひ  
あひまひ  
さきりせむうごまつ  
らんごらうごま  
まきんふてまき  
へくゆりうま  
ありまつふ  
きごあひね  
とあふ  
あひまひ  
てあちこち  
まきんふてまき  
そのひひひひ  
日ハなれそつハ  
つひひひひひ  
そのひひひひ  
あひまひ  
さきりせむうごまつ  
らんごらうごま  
まきんふてまき  
へくゆりうま  
ありまつふ  
きごあひね  
とあふ  
あひまひ  
てあちこち  
まきんふてまき  
そのひひひひ  
日ハなれそつハ  
つひひひひひ  
そのひひひひ  
あひまひ

魚目文作芳幾画



魚目文をあらわすともうら  
 んちあちあちのうら  
 中へ日へられ  
 そものうら  
 びんぎんぎん  
 まりりひひ  
 千きんのち  
 ありのうら  
 まりのうら  
 ふあじにあす  
 ぞくろひんま

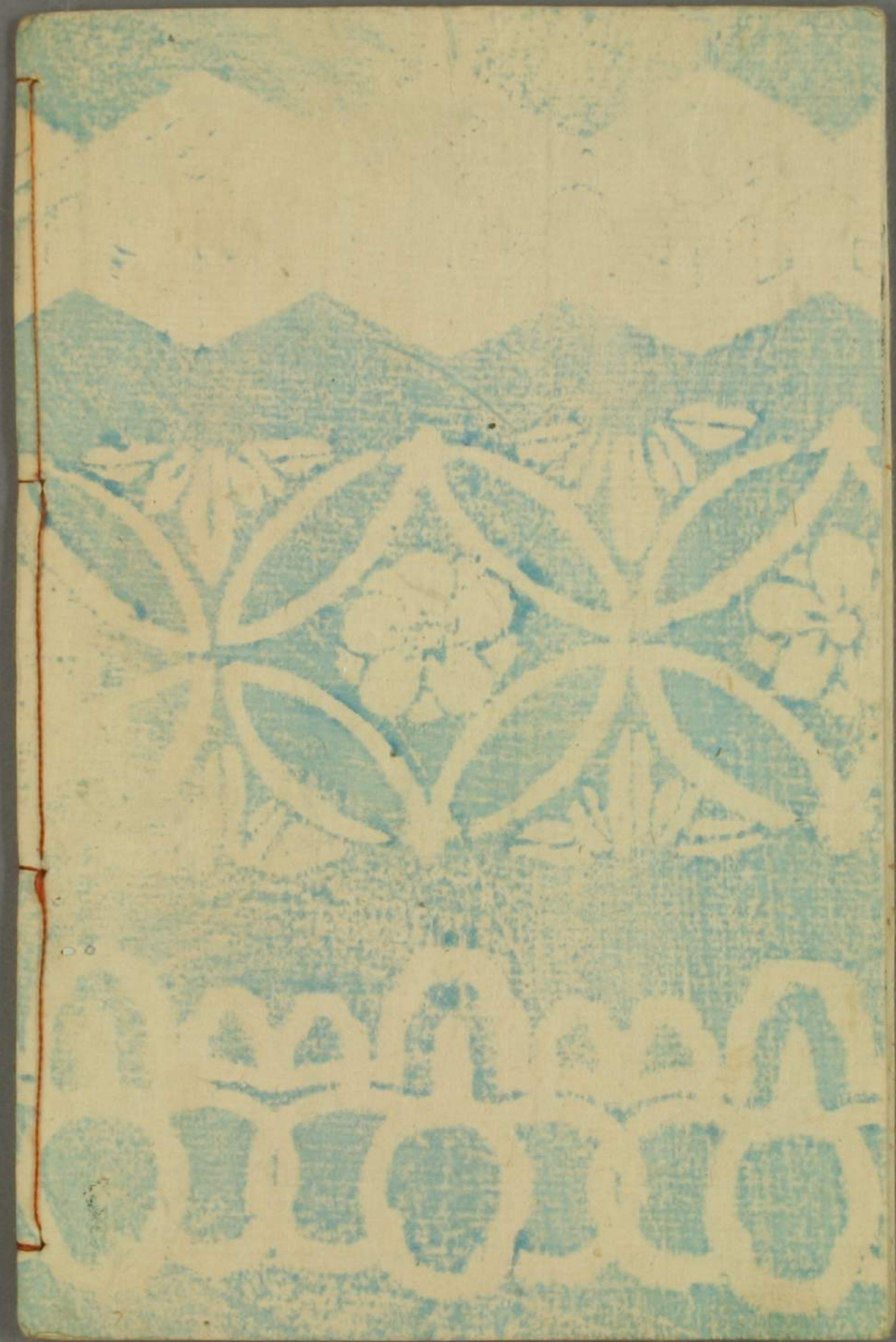
◎ 魚目  
 うら  
 ひひ  
 のうら  
 まり  
 まり  
 うら  
 うら  
 うら

魚目文のうら  
 まり  
 まり  
 うら  
 うら

魚目文のうら  
 まり  
 まり  
 うら  
 うら

魚目文のうら  
 まり  
 まり  
 うら  
 うら

魚目文のうら  
 まり  
 まり  
 うら  
 うら



魯 文 八  
芳 交 八  
幾 録 芳  
画 傳 人

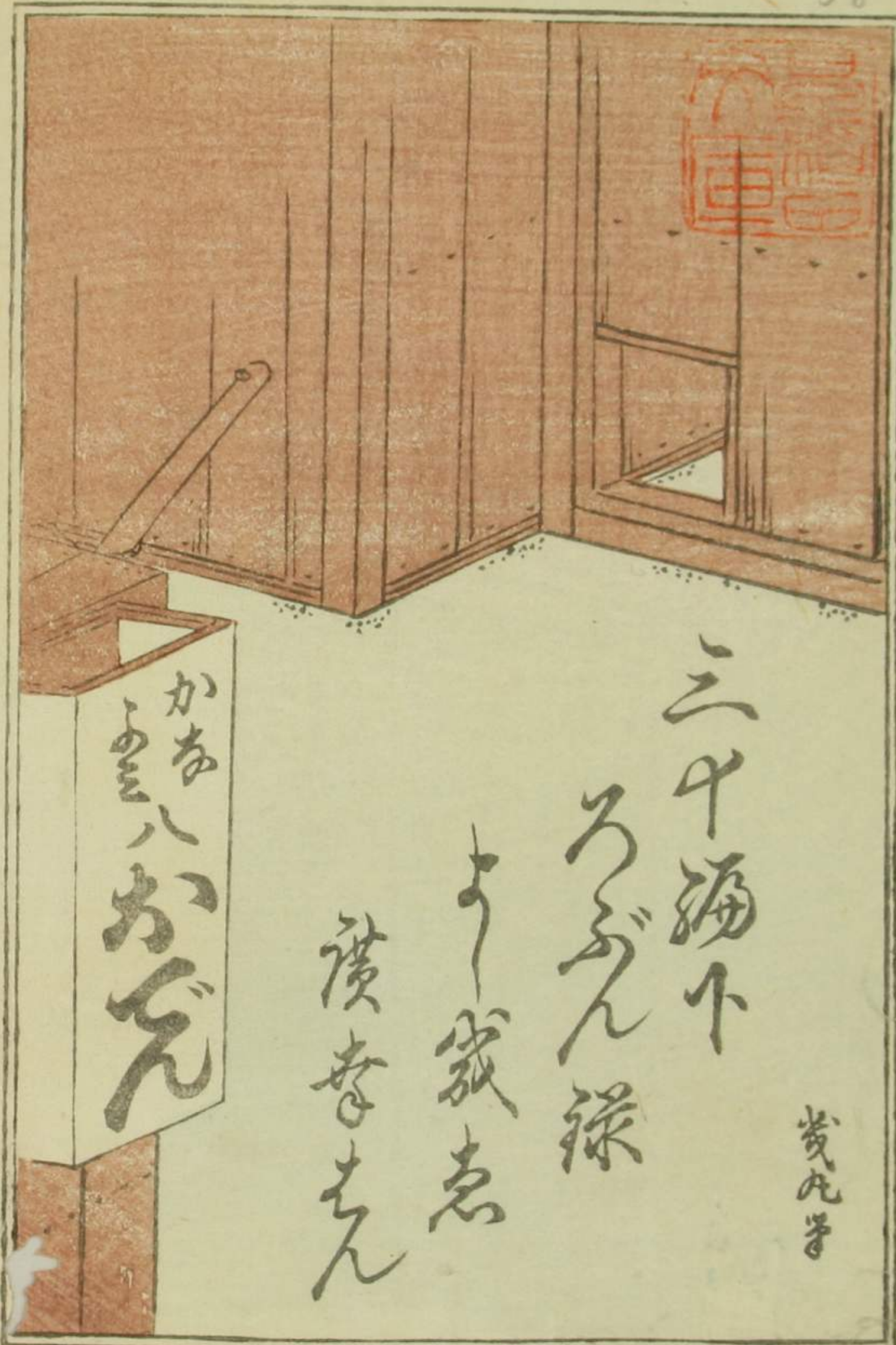
茶考書梓

三拾編下



特別  
13  
4271  
58

三









犬傳三十

十三



犬傳三十

十三





△あつちのちやうち  
 △あつちのちやうち  
 △あつちのちやうち  
 △あつちのちやうち  
 △あつちのちやうち

△あつちのちやうち  
 △あつちのちやうち  
 △あつちのちやうち  
 △あつちのちやうち  
 △あつちのちやうち



△あつちのちやうち  
 △あつちのちやうち  
 △あつちのちやうち  
 △あつちのちやうち  
 △あつちのちやうち

△あつちのちやうち  
 △あつちのちやうち  
 △あつちのちやうち  
 △あつちのちやうち  
 △あつちのちやうち

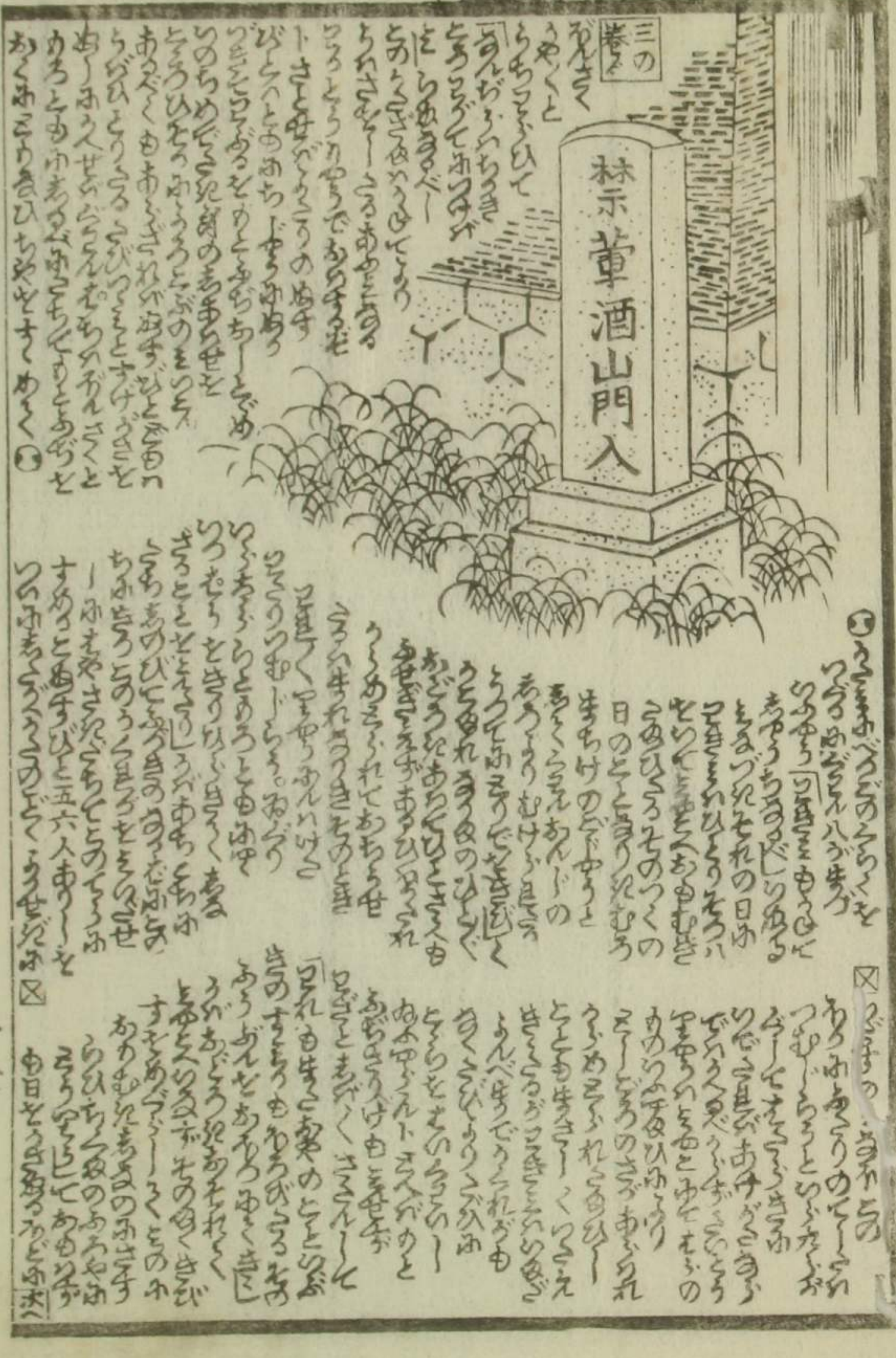


三の  
 林示 葦酒山門入  
 三の  
 林示 葦酒山門入  
 三の  
 林示 葦酒山門入

三の  
 林示 葦酒山門入  
 三の  
 林示 葦酒山門入  
 三の  
 林示 葦酒山門入

三の  
 林示 葦酒山門入  
 三の  
 林示 葦酒山門入  
 三の  
 林示 葦酒山門入

四



三の  
 林示 葦酒山門入  
 三の  
 林示 葦酒山門入  
 三の  
 林示 葦酒山門入

三の  
 林示 葦酒山門入  
 三の  
 林示 葦酒山門入  
 三の  
 林示 葦酒山門入

三の  
 林示 葦酒山門入  
 三の  
 林示 葦酒山門入  
 三の  
 林示 葦酒山門入





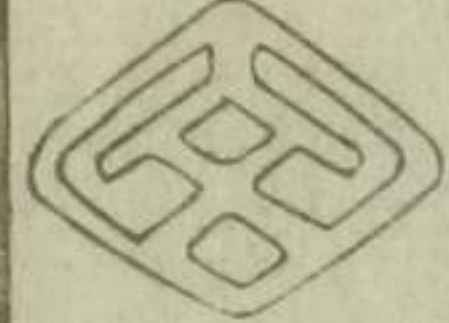




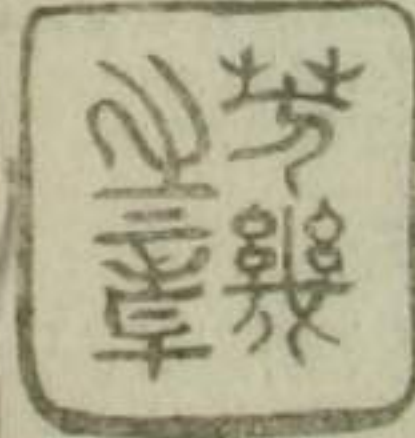




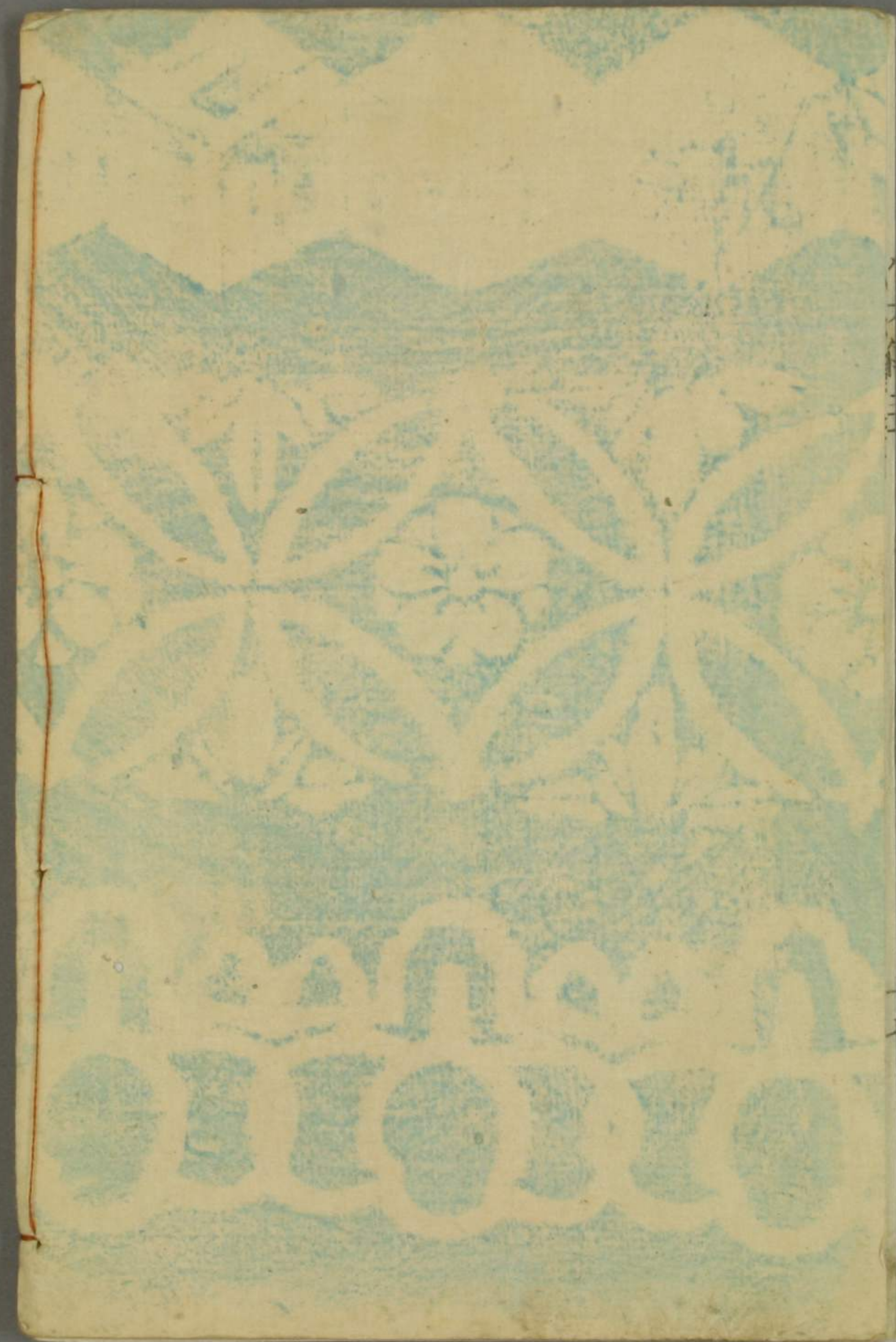
# 魚目文抄録



# 芳幾画圖



Handwritten text on the left page, including a vertical title '魚目文抄録' and various annotations. The text is written in a cursive style and is somewhat faded and obscured by ink smudges.



假名續

葉壽堂  
梓

八犬傳

三拾編

假名垣

魯文錄

一十卷

芳歲画



幾九筆

同行八

